学校番号	３２３

令和３年度　書道科

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新編「書道Ⅱ」　（教育出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年次に学んだ用筆法や造形法を基に、より独自性の強い作品を作ります。柄や絵とコラボレーションした作品で緻密な構成と根気強い制作態度が要求されます。しかし、そう難しく考える必要はなく、指示されたとおりに進め、合間にアドバイスを受ければ、間違いなしにレベルの高い作品に仕上がります。２年次では新たに、簡易日本画絵の具である顔彩も使用します。結構扱いの難しい用材ですが、１年次同様、その使い方も基礎から教えますので、十分、使いこなせます。１年次以上に長期にわたる制作が続きます。集中力を高め、最後までやり遂げるようにしてください。

２　学習の到達目標

筆、墨、文字を使い、また、それに絵や柄を組み合わせることにより、より独自性の高い作品を作り上げる。細部にまで神経を行き届かせ、小品ながらも完成度の高い作品をめざす。また、揮毫する言葉にもこだわり、その作品の中に、自分なりのメッセージ性を込める。その過程の中で、芸術のありよう、芸術の本来的な意味を感得する。無の中から物を作り出す喜びや、そこに込めた自分の主義主張が如何なる意味合いを持つようになるのか、その道程の中で芸術作品の持ち得る意味合いを知っていく。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	創作活動に興味、関心を示し、能動的に作品制作に取り組む。自分なりの表現も求め意欲ある制作態度を示す。	柄や絵とのコラボを念頭に完成度の高い作品を求める態度や思考を重視している。	文字造形の変化と調和を考える。言葉の選択も重視する。初めて使う顔彩に対し、基本的な使い方を知り、後々まで創作を楽しめる素養と態度を養う。	作品の制作で、「芸術」その物に対する知識を増やす。適切なアドバイスと共に、制作者たる姿勢を養う。
評価方法	・観察や対話 ・提出作品	・観察や対話 ・提出作品	・観察や対話 ・提出作品	・観察や対話 ・提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	小筆の特訓	3種類の小筆教材を使用し徹底した小筆の習得に挑む。その際、手紙の書き方、色紙の使用法も教示する。	○	○	○	○	a:各教材に対し、集中して取り組めている。また、１年次の基礎的技法を元にして、自分なりの工夫をしようとしている。 b:より高い技法を習得し、今までの表現ではない新たな表現方法を会得しようとした。 c:小筆の特質を生かし、毛先を十分活用した書的表現が出来つつある。 d:小筆の揮毫による文字の造形の応用力が身に付きつつある。	・提出作品 ・観察と対話
1	作品制作(その1)	レースパターンによる作品制作。	○	○	○	○	a:構想段階から緻密な作品を作ろうとする態度を養う。 b:過去の作品を元にしつつ、自分自身の作品に如何に独自性を盛り込もうとする。それを基にハイグレードな作品に仕上げようと工夫する。 c:先に学習した小筆教材を基に、小筆の毛先を極限まで生かした制作をする。 d:他者の制作を見つつ、自分の作品修正等に生かせるような能力をも習得する。	・提出作品 ・観察と対話

2	作品制作(その2)	短線画による作品制作	○	○	○	○	a:レースパターンの作品を踏まえ、初めて色彩にある作品に挑む。色彩を使うことで、意欲を増大させ、よりレベルの高い作品の完成をめざす。 b:色の組み合わせによる表現の違いを経験させ、色彩と墨のより良い融和をめざす。異質な物の融合が生み出す斬新な感覚を体験する。 c:顔彩の扱いを習得する。顔彩は扱い自体は難しいが基本的な性格を知れば比較的多種多様な表現ができる。その技能を修得し、次回以降の作品にもつなげる。 d:従前の評価作との比較や周りの生徒の作品の比較を通し、自分なりの作品に相対する鑑賞力を養う。	・提出作品 ・観察と対話
2	作品制作(その3)	モザイクパターンによる作品制作	○	○	○	○	a:下書きの段階で如何にパーツ数を多くするかを考える過去の優秀作を鑑賞し、そのレベルを凌駕する作品制作を求める。 b:具象的な柄を導入する作品も現れる。その柄・デザインの具象性と文字表現を如何にマッチさせるか、その構想力をはぐくみ、書道表現との融合を考えさせる。 c:全般的に丁寧な作業技能を修得するように努力する。色の組み合わせによる表現の可能性も追求する。 d:このモザイクパターンは3年次により大きな作品に取り組む。より高度な作品を追い求める姿勢を育てる。その過程の中で鑑賞能力を上げる。	・提出作品 ・観察と対話

3	作品制作（その2）	モザイクパターンによる作品制作の続き 篆刻・作品に合う印の作成	○	○	○	○	a:最後まで怠ることなく、真摯な制作態度を貫く。高いレベルをめざして創作意欲を高めることを維持する。 b:最終的に柄（デザイン）と文字を融合させる中で、芸術としてのありようや創意工夫の能力を高める。 c:２年次最後の作品に相応しい多様な線質の表現に取り組む。線がもたらす表現の多様性多様性を感得する。 d:冷静かつ客観的に自他の作品を鑑賞しうる能力を習得する。	・提出作品 ・観察と対話

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想の工夫
　　c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。